

優秀賞

小学生部門

神奈川県横浜市

横浜市立つづきの丘小学校5年

山本 彩佳

## 「ありがとう」の大切さ

「おしっこ?」おしりをむずむずさせたひいばあに私は聞きました。「今、誰かを呼んでくるからね。ちよつと待っていて」今年九十七才になるひいばあは一人でトイレに行けません。簡易トイレを用意する必要があります。ベッドの側にいた私は急いで部屋のドアを開けて、介護士さん呼びました。ちようど夕食の準備でみんな忙しそうにしていました。「ちよつと待って下さい」若い介護士さんはぶっきらぼうに答えました、忙しいのに悪いなと思いつながら、ひいばあは大丈夫かなと心配になりました。しばらくたって、エプロンはずし、ゴム手袋を取りながら、介護士さんがやってきました。にこりともしないで無言でひいばあのおむつを取り替えはじめました。なんとなく怒っているような気がしました。

その時、めったに言葉をしゃべらないひいばあが「ありがとう」と言ったのです。とても小さな小さな声でしたが、確かに「ありがとう」と言いました。すると介護士さんの表情が急に穏やかになりました。パジャマのズボンを上げるとき、上着の前を合わせるときの様子がとてもいい感じになりました。介護士さんは笑顔で「終わりましたよ」と言って、ひいばあの手を軽くぼんぼんとたたきました。二人ともにここは顔です。

介護士さんの忙しさを分かっていて、それでもお世話にならなければならぬ自分の事を考えて、心から自然に出たひいばあ「ありがとう」その気持ちが介護士さんに伝わって、介護士さんの心を和らげたのだと思います。普段ひいばあは、めったに言葉をしゃべることはありません。私達が話しかけても、黙ってじつとこちらの顔をみているだけだったので、この日の出来事はとても印象に残っています。私はひいばあから「ありがとう」の力の大きさを学びました。